

祈ってくださるイエス

ヨハネによる福音書 17：20－26



司祭 ヨハネ 井田 泉

復活節第7主日（昇天後主日）

2025年6月1日

上野聖ヨハネ教会にて

イエスは復活されたあと、40 日間にわたって弟子たちに何度も現れて、ご自分が生きていることを示されました。そして弟子たちの見ている前で天に昇られた、とルカ福音書および使徒言行録には記されています。そのとき、イエスは手を上げて弟子たちを祝福された。祝福し祈ってくださるイエスの姿、またその手は、見つめる弟子たちの心に刻印されました。どんなに心強くうれしく、弟子たちは感じたことでしょうか。

ところで天に昇られたイエスは、それっきりわたしたちから離れてしまわれた、というのではありません。地上において弟子たちのために祈ってくださったイエスは、今度は天において、父なる神のそばで祈っていてくださるのです。

パウロはこう言っています。

「だれがわたしたちを罪に定めることができます。死んだ方、否、むしろ、復活させられた方であるキリスト・イエスが、神の右にあって、わたしたちのために執り成して下さるのです。」ローマの信徒への手紙 8:34

それですから、この説教の後、わたしたちはニケヤ信経を唱えますが、その昇天の場面、「……死んで葬られ、聖書にあるとおり三日目によみがえり、天に昇り、父の右に座しておられます」というところ。わたしたちのためにさらに祈るために天に昇られたのだ、と感じたいと思います。

さて今日の福音書は、最後の晩餐の終わりにイエスが祈られた場面です。ヨハネ福音書 17 章全体がイエスの祈りですが、長いのでそれを三つに分けて、A年、B年、C年で全体を聞くように選ばれています。今年はC年ですので、17 章のイエスの祈りの第3の部分、祈りの締めくくりの部分です。何と祈られているのでしょうか。

「また、彼らのためだけでなく、彼らの言葉によってわたしを信じる人々のためにも、お願いします。」ヨハネによる福音書 17:20

ここでイエスは、ご自分の直弟子だけではなく、「**彼らの言葉によってわたしを信じる人々**」、後の弟子、つまりわたしたちのために祈ってくださっているのに気づきます。イエスは祈りをもって、今もわたしたちを支えていてくださるのです。

ところで、今日の箇所を何度か読んでいて気づいたことがあります。それは、ここでイエスが神に向かって一度でなく三度も呼びかけておられる、ということです。21 節「父よ、あなたがわたしの内におられ……」、24 節「父よ、わたしに与えてくださった人々を……」、25 節「正しい父よ、世はあなたを知りませんが……」。祈りながら神への呼びかけを何度も繰り返すのは、それだけイエスが切実に祈られたことを示しています。

ここでイエスは、わたしたちのためにどんなことを祈ってく

ださったのでしょうか。

大きく二つあります。一つは、わたしたちが一つになることです。

「父よ、あなたがわたしの内におられ、わたしがあなたの内にいるように、すべての人を一つにしてください。彼らもわたしたちの内にいるようにしてください。」 17:21

「すべての人を一つにしてください」

イエスは、愛する弟子たちの間に不一致や分裂があるのを知っておられました。初代の教会にも、今日の教会にも、対立や分裂があります。それはどうしようもないことかもしれません。しかしそれをイエスは嘆かれます。イエスは決して諦めず、「一つにしてください」と祈られます。

どのような意味での「一つ」なのでしょうか。「あなたがわたしの内におられ、わたしがあなたの内にいるように」と言われます。父なる神さまがイエスの内におられ、イエスが神さまの内におられる。イエスと神さまの間には、愛と信頼の深い一致と交流がある。そこには喜びと幸福がある。そのような幸せな一致と交流が、イエスを信じる者の間に生まれるように。そしてやがては全人類にそれが及ぶように。イエスはそれを祈り続けられます。

あの夜、最後の食卓で、「一つにしてください」と祈られたイエスの祈りは弟子たちの胸に刻まれました。それから 50 日、一

つになって祈っていた祈りの群れに、聖霊が注がれました。来週がそれを記念する聖霊降臨日です。

二つ目の祈りは、24節を見ましょう。

「父よ、わたしに与えてくださった人々を、わたしのいる所に、共におらせてください。」17:24

イエスはわたしたちのことを「(神が)わたしに与えてくださった人々」と言われます。神がイエスに託された。イエスはわたしたちをご自分のものとして引き受けてくださった。イエスにとってわたしたちはこの上なく大切な者なのです。その人々を「わたしのいる所に、共におらせてください」「わたしのいる所に、わたしと一緒にいるようにしてください」と祈られます。

この祈りによってイエスはわたしたちをご自分のもとの招き、わたしたちを引き寄せられます。

イエスが祈っておられる所にわたしたちも行って一緒に祈り、イエスが働かれるところに招かれてイエスと一緒に働く。苦労があっても幸いなことです。そして最後は、わたしたちも天に招かれてイエスと一緒にいるようになる。わたしたちの力では不可能なことを、イエスは実現される。そのために祈ってくださるのです。

「父よ、わたしに与えてくださった人々を、わたしのいる所に、共におらせてください。」

昨夜ふと、これは自分の身に思い当たると感じました。今からもう 50 年も前、わたしは聖職志願するかどうかで長い間迷い苦しんでいました。そうしたとき、ある教会の先生がわたしの話を聞いて、「神さま、どうかこの兄弟をあなたのみもとに引き寄せてください」と祈ってくださった。結局、わたしはその後、神学校に行くことになったのですが、思い出すたびに感謝が起きます。

「わたしのいる所に、共におらせてください」と祈られたイエスが、その先生をとおして祈り、わたしをイエスのもとに引き寄せてくださったのだと思います。

韓国のプロテスタント教会で用いられる^{チャンソング}讃頌歌（讚美歌、聖歌にあたるもの）438 番は「わたしの魂は恵みを受けて」で始まります。1 節の歌詞をご紹介しますとこんなふうです。

わたしの魂は 恵みを受けて 罪の重荷を脱ぎ捨ててみると
悲しみ多いこの世も 天国と化する
ハレルヤ 賛美しよう わたしのすべての罪を赦されて
主イエスと共に行くのだから そこはどこであれ神の国

悲しみがあり困難がある。しかしイエスがわたしたちのために祈り、わたしたちを招き、みもとに引き寄せてくださる。イエスと共に歩むのは幸せです。この幸せのために、イエスは祈

ってください。し、祈り続けてくださるのです。

祈ります。

主イエスさま、あなたがわたしたちのために祈ってくださいましたこと、今も祈っていてくださることを感謝いたします。わたしたちを信仰と希望において一つの祈りの群れとしてください。あなたのもとに引き寄せられてあなたと共に歩む。天に至るまで共に歩むその幸いを増し加えてください。アーメン